

## 全国大会に関わる様々な仕掛け

～保育者・子ども達・大会参加者に向けた提案と実践の応酬～

山陽学園短期大学 准教授 鳥越 亜矢

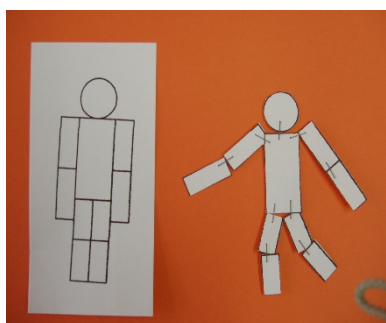


上の写真は、2017年11月14日・15日に行われた、第68回 造形表現・図画工作・美術教育研究全国大会(岡山大会)兼、第33回 中国五県造形教育研究大会(岡山大会)の就学前部会、岡山市平井保育園での公開保育の様子です。私はこの大会に岡山市平井保育園の講評・助言という立場で約2年間関わり、無茶ぶりともいえる提案や投げかけを行ってきました。園長をはじめとした岡山市平井保育園の皆さんはそれらを全て受け止め、この大会を目的、あるいはきっかけとした様々な実践がなされました。ここではその提案や実践を「仕掛け」と称しています。それは保育者士を対象にしたものや、子ども達、そして、大会に参加して下さった方々に向けたものなど様々です。

実はその「仕掛け」の中に、保育の視点として提案した「5C」の力とカテゴリーレベルがあります。2つの視点は私が園に対して行った一番の無茶ぶりといえるものですが、それに関しては3月刊行の平成29年度 大学造形美術教育研究 第16号の拙稿をご覧いただきたいと思います。今回のメールマガジンでは、その内容は最小限にとどめ、論文には掲載しきれなかった提案と実践の応酬を保育者・子ども達・大会参加者に向けた「仕掛け」として紹介したいと思います。

## ■仕掛け1：「5C」の力と、「できないことは無理してやらない」という保育者への提案

全国大会の公開保育を引き受けるのは園にとって初めてであり、私も講評助言は初めてのことでした。私は2016年2月29日に初めて園内研修に参加しましたが、園には造形に対して苦手意識のある先生もいました。そこで私は、園の先生方を安心させるために、研究保育は新しいことを「0」から立ち上げて行うわけではないことと、大会テーマの理解は保育に対する保育者の意識を見つめ直すいい機会だと伝えました。そして、大会テーマの読み込みに、経営学の研究を専門としている東洋大学の小川純生先生の遊びの面白さを捉える「5C」の力<sup>1)</sup>を紹介しました。大会テーマは「おもいを育み つながり ひびきあう造形教育」です。テーマにある「おもい」って何？先生と子ども両方に育まれる「おもい」はあるよね。「おもい」って楽しいものばかりじゃないよね。保育園で「おもい」がひびきあったり、つながったりって、どうということ？他の校種とは異なり、保育園には生後数カ月のまだ形を造ることができない段階の子どもがいる。でも、そんな子どもも遊びは面白いと思っているよねと、「5C」の力をあてはめながらテーマの読み込みをしました。



また、その園内研修で経験画の活動で苦手意識を持っている子どもがいるという現状を聞き、子どもに苦手意識をもたらす可能性として次の2点を指摘しました。まず、経験画には何かの動作をしている人物が描かれること。次に、その背景になる事物を描くため重なりのある構図になる点を伝えました。そのうえで、人体のポーズが描けないなら、無理して描かせることはしない。人や物の重なりが描けないなら、無理して描かなければよいという提案をしました。「じゃ、どうしたらいいの～！？」という顔をしている先生方に紙人形<sup>2)</sup>(写真左上)と、貼り重ねを提案しました。紙人形は簡単に子どもたちが作ることができます。先生たちは早速実践しました。自分のポーズと同じ形になるよう紙人形を動かしたり、





紙人形の形を見て描く子どもや、そのまま貼り付ける子どもなど、その子に応じた表現を楽しむことに繋がりました。やがて、紙人形に頼らなくても、自分の表現ができるようになりました。

## ■仕掛け2：「じゃま」な「はしら」を「き」にしてみよう！

岡山市平井保育園の4歳児みどり組の部屋は2階の端にあります。この保育室の中ほどには大きな四角い柱があります。保育の際には柱の向こうが死角になったり、ぶつかってケガをしないよう緩衝材を巻き付けたりして、普段から保育士らが邪魔だな〜と気にしていた存在でした。

大会プログラムに掲載する保育計画を検討する際、夏から秋に向かって連続した保育をして大会の公開保育につなげたいという園の意向がありました。その中で4歳児みどり組は夏にたくさん虫取りをして、その経験を造形活動に取り入れたいということが分かりました。それを聞いた私は、「それじゃ、保育室の邪魔な柱、“木”にしてみます？」と園長に言いました。我ながら言葉遊び的な発想でしたが、さっそく園長は担任保育士に提案。保育士らはその提案をとても喜び、子ども達と一緒に大きな段ボールに絵の具を塗りたくり、立派な“木”ができあがりました。大会当日は下の写真のように紅葉した葉っぱのある「秋」の木になっていましたが、夏には子どもたちが作った虫がいる「夏」の木になっていました。ところで木に扉がついていますが、そこには柱に設置されているインターホンやスイッチが隠れています。この柱、今ではみどり組になくてはならない大切な木になっています。





### ■仕掛け3：公開保育を「普段と同じ、面白いことがいっぱいの日」にするための工夫

公開保育が特異な日にならないよう、保育士達は普段から子どもの興味や発達に合わせつつ、家ではできないダイナミックな遊びをしました。どんなに汚しても平気。どんなにはみ出しても大丈夫。先生たちが受け止めてくれるから。そこには子ども達が安心して遊び込むための保育士の細やかな配慮が満ち溢れています。どの年齢の子ども達も生き生きと体全体で素材や環境に関わり、保育士や友達と一緒にワクワクしたり、いろいろなことに気づいたり、思いを分かち合ったりの連続です。また、園では保育室に保育士以外の大人がいる状況に子ども達が慣れるよう、積極的に視察を受け入れました。楽しいことが待っているから、面白いことがあるから、どんな状況でも子ども達は保育士の話や遊びに集中するようになりました。





#### ■仕掛け4：参加者が大会資料を読まなくてもいい園内環境に！

大会資料を作る時期になった時、私は園の先生方にこんな提案をしました。「大会資料は持ち帰って読むお土産。公開保育当日はそれを読まなくてもその場に身を置いたら全部わかるようにしてほしい。」これも今思えば無茶ぶりだったかもしれませんが。しかしこれは譲れない条件でした。なぜなら、参加者は初めて訪れる園舎の中で見たい場所を捜し歩くからです。わからなければ立ち止まって資料をパラパラ…などと、まだるっこしいことはやってられないのです。特に、目の前にいる子どもが何歳児で、それは何組か、トイレはどこか、だれがどの組の先生なのか、園にとっては当たり前のことが参加者にはわからないからです。そんな基本情報のほかに、まだ当事者にとって当たり前のことがあります。それは、これまでの経緯と公開する保育内容との繋がりです。これを可視化して、参加者にわかりやすく示す。保育内容のドキュメンテーションとその展示を考えてほしかったのです。先生方、意外にも楽しみながら頑張りました！

プラスチック段ボールを土台にしたドキュメンテーション。







11月2日のプレ公開では80人くらいの方が見学に来ました。その時の展示も素晴らしかったのですが、見学者の動線や停滞状況を踏まえ、展示場所や展示方法の見直し、土足と上靴のエリアの明確化など、14日の大会当日ぎりぎりまで環境の見直しを行いました。他園に視察に行ったとき、園長がうちには展示するスペースがないと悩んでいたのが嘘のようでした。壁、ベランダ、解放廊下、いたるところに視覚的に情報提供がされたほか、道具や画材に触れて試せるコーナーや、手作りマーブルクレヨンレシピまで準備したのです。公開保育当日は200名以上の方をお迎えすることになりました。岡山市平井保育園は定員120名の規模です。公開保育後の振り返りに使った本学講義室はほぼ満席になりました。(写真左)どれだけ多くの大人が園舎にいたのか、想像に難くないと思います。

## ■見学者の感想

プレ公開、大会当日ともに、多くの感想をいただきました。2年間の取り組みや仕掛けの意図がしっかり伝わっており、参加者が元気になる公開保育と自負しています。ほんの一部ですがここに紹介します。

- ・保育環境づくり、保育の仕掛けづくりの中で、先生方の実践への思い、ねらいが1つ1つしっかり示されていてどの活動、展示からも子どもたちが自ら面白いという表情があふれていました。とてもたくさんの事を学ばせて頂きました。5Cの力、カテゴリーレベルの考えもとても参考になりました。
- ・今までの活動を分かりやすく展示してくれていることで参考になりました。また、本日の保育の中で疑問をその場で答えてくれる先生たちばかりでとても勉強になりました。
- ・私自身、面白そう！やってみたいと思える環境や活動ばかりでした。とっても楽しかったです。
- ・「おもしろいがいっぱい」をテーマに先生方の意識を持つだけで保育の内容が大きく変わるのだと実感しました。
- ・3歳以上では、1つの活動の中に子どもが一緒に集まるのではなく、いろいろなレベルの準備ができていることの大切さがわかりました。3歳未満児では、保育者が楽しく遊ぶ「声と言葉」がきちんと正しく部屋の中できこえ、遊びが子どもに伝わっていく様子がよく見えました。…子どもの育ちに力を尽くし、保育をがんばろうと思いました。

## ■成果は続くよ、どこまでも

この経験は間違いなく保育士の自信になっています。

どんとこい、公開保育⇒園長「1月に引き受けてしまいました～」保育士「またですね～。OKで～す。」

保育の視点は他園にも広がる！⇒公立園の保育士なので、身につけた視点は転勤先でも使っていきたい

「鳥越先生、講演会に来てくださ～い。」「OKで～す！」

## 註

- 1) 小川 純生「遊びは人間行動のプラモデル？」経営論集 58号, 2003, pp. 25-49
- 2) 芸術教育研究所監修 松岡義和『乳幼児の絵画指導 スペシャリストになるための理論と方法』黎明書房, 2007, P65

謝辞 写真は岡山市平井保育園と北翔大学の山崎正明先生からご提供頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。

● 「全美協メルマガ」第6号（3月1日）は 四條畷学園短期大学部 香月 欣浩先生です。